

県民のみなさんへ

熊本県知事 細川護熙



熊本に秋の訪れを告げる藤崎八幡宮例祭も終わり、残暑が続くなかにも「随兵衛合」と申しますか、朝夕はめっきり秋の気配が色濃くなりました。

九月十五日から老人福祉週間が始まっています。お年寄りが大事にされ、またお年寄りが永年の知識・経験を活かして、さらに社会に参加・貢献していただくような、あたたか味のある福祉社会づくりに一層取り組んで行かねばならないと思っています。

ところで、八月一日から始まりました第四回全国都市緑化くまもとフェア「クマモトグリーンピック'86」も大変好評で、多くのご来場をいただいています。十月十二日までの会期ですが、まだご覧になっていらっしゃらない方には、せっかくなので催しのでぜひ早めにご来場いただくようご案内申し上げます。

また、先日世界十二か国から参加をいただいて開催しました熊本グリーンサミット会議には、皇太子殿下、同妃殿下のご臨席を賜ったほか、グリーンピック会場で行われた天皇陛下御在位六十年の記念緑化祭にも両殿下ご臨席、ご植樹いただく等大変有難く思っている次第です。

このようなことをきっかけに、県民の方々のなかで、さらに緑の問題についての関心と議論が高まることになれば幸いです。

秋草の花の咲き乱れる野を「花野」といいます。今、阿蘇の尾根や原野には、萩やスキにまじって、カワラナデシコ、ワレモコウ、リンドウ、ツリフネソウ、ヒゴタイ等で一大花野となっています。

県内各地でも秋祭りが始まっています。これからは、過ごしやす、一番いい季節になりますので、県民の皆様におかれましては、爽やかな毎日をお過ごしになりますよう、お祈りいたしております。

県政トピックス



大好評！十月十二日まで。グリーンピック'86

第四回全国都市緑化くまもとフェア「クマモトグリーンピック'86」が八月一日、七十三日間の火ぶたを切った。今年度、西日本最大のビッグイベントというところで、開幕以来県内外から多くの人が訪れて、連日にぎわいをみせている。

十月十二日まで、熊本市の水前寺江津湖公園で開催中。



テクノ建設にはずみ。三井ハイテック熊本進出

七月十五日、ICリードフレームでは世界のトップメーカー、三井ハイテックが菊池郡大津町に進出することが正式に決まった。総敷地面積百万平方メートルの大規模工場で、六十四年度に操業開始予定。

進出規模としては、四十八年度の本田技研以来のもので、最終的な雇用人員は男性を中心に二千名、出荷額は初年度百億円、五年後が五百億円を見込んでいる。テクノポリス建設への大きなはずみになるものと期待される。

最先端の技術情報を交換。国際バイオセミナー開催

生命科学、医学、農学等の専門家を国内外から招いて、「バイオテクノロジー―熊本国際セミナー」が八月二十二日、熊本市で開かれた。

これまでの研究状況についての報告、バイオの将来像の講演につづき、パネル討論会では「熊本のバイオライフを展望する」とのテーマで熱心にやりとりが交された。

このような分野での国際会議は地方で初めてということで、九州各地から参加があり、各界から注目を集めた。



「二十一世紀の地域づくり」をテーマに。くまもと日本づくりフォーラム

「二十一世紀の地域づくりを考える」をテーマに、くまもと日本づくりフォーラムが七月十二日、県立劇場で開かれた。

知事の「各自自治体は個性を伸ばす意識を持つ」という挨拶のあと、熊本の地域づくりについて、松下政経塾生による現地レポートが行われた。



知事と地域リーダーたちが活発な討議。人吉球磨地域懇談会



八月五日から六日にかけて、個性ある地域づくりをめざしている人吉・球磨地域のリーダーと細川知事の懇談が行われた。

球磨村毎床の梨園での生産者との緑陰対談、深田村、相良村、錦町でのリーダーとの懇談、上村のハーブ園視察、球磨農高での生徒との懇談、湯前町下村婦人会の漬物加工場視察そして、人吉・球磨の地域づくりリーダーとの夜なべ談義など、どの会場でも活発な意見や情報の交換がなされた。

高速道路の開通等をひかえ、人吉・球磨地方は、今新しい時代に向かっての大きなうねりが始まっている。

全国の自治体に先がけて。土地信託ビル第一号

県は、全国の自治体に先がけて土地信託制度を導入。情報関連企業が入居する土地信託ビルを、熊本市花畑町の県有地に建設する構想を、六月三十日に発表した。

土地信託は、新たな財源を負担せずに土地を有効利用でき、民間活力の導入を計ることで、景気を上向きにさせるなどのメリットが期待されている。また、ビル完成五年目から年間千三百万円の信託配当があり、三十年後には一億三千万円の配当があるとの見込まれる。

マイタッチ計画。先生たちのパソコン研修



夏休み期間を利用して、七月二十二日から、県下の公立学校から集まった五百人の先生を対象にパソコン研修が行われた。

これは、今年度スタートした「マイ・タッチ計画」の指導者を養成しようとするもの。三カ年で県内の全公立学校に三千六百台のパソコンを導入するこの計画は、子どもたちにパソコンに慣れ親しんでもらい、情報化時代の人材育成を目的としている。